

スウェーデン 環境ニュース

2000年 12月号 ページ1 / 3

スウェーデンがEU議長国として 「環境」を3つの柱の1つに

2001年1月1日から6月30日までの半年間、スウェーデンは初めて欧州連合（EU）の議長国になります。15カ国が加盟しているEUの最高決定機関は欧州連合理事会（閣僚理事会）と言い、その議長を勤める国が議長国です。加盟国が交代で半年間ずつ議長役を勤めることになっていて、現在はフランス、そしてスウェーデンの後はベルギーが務めます。議長国は半年間、閣僚理事会の活動を計画し、イニシアチブをとります。

議長国になることはリーダーシップを発揮する最大のチャンスです。特にスウェーデンのような小国にとって、自国が重視する政策を推進する絶好の機会です。スウェーデンは3つの主要政策分野を最優先課題と指定し、力を入れる予定です。これら3つの分野とは、EU拡大・雇用・環境です。また、議長国としてのリーダーシップをアピールしている特別ホームページを設置しています：

<http://www.eu2001.se>（英文）

持続可能な EUのための戦略を ヨーテボリで採択の予定

99年5月1日発効のアムステルダム条約（マーストリヒト条約に代わるEUの「新憲法」と言われる法的根拠）には、EUの各政策分野に環境配慮を盛り込むことが謳われています。98年以来、エネルギー、運輸、農業の分野を担当する閣僚理事会で、環境配慮を組み込む作業が進んでいます。市場の統一化や、産業、開発援助、漁業、経済・財政の政策分野、そして総務閣僚理事会（外交やEU加盟国間問題担当）の政策にも環境配慮を組み込む作業が始められています。これら各分野の戦略は、EU首脳会議がスウェーデンのヨーテボリ（Göteborg）市で開催される

2001年6月15、16日までにまとめられる予定です。これらの作業と平行し、欧州委員会は経済、社会、および環境的に持続可能なEUのための総合戦略を打ち出す作業を進めています。この総合戦略はヨーテボリ首脳会議で採択される予定です。

さらに2001年1月、欧州委員会はEUの第6回環境計画案を提出する予定です。その計画が前述の「持続可能なEU総合戦略」の環境部分に相当します。EUは共同体の民主性を強化するために、各国国民より民主的に選出された議員で構成する、EU議会の裁量範囲を拡大することにしています。環境計画は、これまで閣僚理事会のみが採択していたものを、第6回環境計画で初めて閣僚理事会とEU議会の両方の審議を経て、「共同採択」される予定になっています。

（<http://www.eu2001.se>、その他）

シアトル、プラハ、ニースで起きた 暴動の次の舞台は 6月のヨーテボリ？

今年12月7日から9日まで、EUの首脳会議がフランスのニース（Nice）市で開かれました。スウェーデン人は少し心配をしながら会議の様子を見守っていました。というのは、激しい対立の少ない、比較的開かれた政治に慣れているスウェーデン人から見れば、ニース会議は重層な警備に包まれ、緊迫したものだったからです。昨年99年11月にアメリカのシアトルで開かれた世界貿易機構（WTO）の会議や、今年9月にプラハで開かれた世界銀行と国際通貨基金（IMF）の合同会議の際に起こったような暴動が、ニースのEU首脳会議でも起こりました。

スウェーデンは、ニースでフランスよりEU議長役を引き継ぎました。そして前述の、スウェーデンのヨーテボリ市で開催されるEUの首脳会議は、ニース会議に集中した抗議運動の次の対象になっているようです。ヨーテボリがグローバル化や資本主義支配の反対デモの舞台になることが予想されています。スウェーデンの警察や治安部隊はニース会議を視察し、その後ヨーテボリ警察が首脳会議の警備に当てる予算を2倍に増額しました。

（TT通信00.12.12、ロイター00.12.07、Environmental Media Services,その他）

つづく

スウェーデン環境ニュース

2000年 12月号 ページ2 / 3

1ページからつづく

反対運動の主張は？

ヨーテボリ会議に対抗する会議や抗議デモの準備がすでに始まっています。それらを主催する市民団体や労働組合の連合「Gothenburg Action 2001- GBG 2001」の主張は何でしょう。今年10月8日、ストックホルムで同連合の北欧ワーキンググループの会合が開かれました。北欧4カ国の約40団体が参加し、抗議イベントを開催する理由としての共通認識をまとめた宣言を採択しました。この宣言の主要部分を紹介しましょう：

『今までとは違うヨーロッパに向けて』

「私達の目標は、現在主流の発展傾向に代わる案なるものを打ち出すために、ヨーロッパの人々を動かすことです。国間や国内での格差が広がるような、そして環境破壊が増えていくような、有力企業が設定した条件の経済成長が社会的・環境的価値より優先されるような世界は、方針の変更が必要です。

私達は民主主義、健全な環境、人々の連帯を求めています。そして、経済のグローバル化と現在のEUはこれらの価値観に反していると考えます。私達は民主的でないEUに反対し、欧州通貨連合（EMU）の形で、ネオリベラルな政策に憲法の重みをもたせることに反対します。公共部門と私達の環境が、市場で売買される商品にされてしまうことに反対します。EUの軍備化、人種差別、そして「ヨーロッパの要塞」（*）の構築に反対します。」

（*）EU外からの亡命者が入りにくい地域にすることの意味。

これら団体は、非暴力活動だと主張していますが、様々な性質をもった団体から多くの人たちが集まる町の中では、暴力を用いる運動家も参加し、暴動が起こる恐れがあるでしょう。上記に紹介した団体は、非暴力を強調しながら「バリケードで会いましょう！」というような戦いを思わせる表現を使っ

ています。

「対抗サミットGBG2001」のホームページは英文です：<http://motkraft.net/gbg2001>
（対抗サミットGBG2001のホームページ、その他）

個人的に思うこと

個人的な見解ですが、このような市民運動はこれからますます無視できない存在になると思います。なぜなら、この運動の根源は、民主主義が崩壊するかもしれないという危機感から生まれていると考えるからです。EU統合に伴う社会変化の中で、各国の民主主義は薄れる傾向にあります。そして民主主義の代わりになり得る、人々に希望を与えるものが見えないからです。それは1人のヨーロッパ人である私を含め、多くのヨーロッパ人が不安に思っていることです。その傾向に気付いた人々からすれば、権力の弱まった各国政府に抗議をする意味があまり無いように見えるかもしれませんが。権力が結集している主体に抗議を向けるようになります。ニースなどの国際会議開催地で見られるデモは、各国政府の権限が国際組織や多国籍企業に移行してしまったことに対して抵抗している市民の姿です。テレビ画面には暴動と化したデモが映るけれども、根源の問題は、国際会議場周辺道路だけではなく、社会的に認められた討議の場でも冷静に議論されている問題です。抗議デモは氷山の一角なのかもしれません。

EUの首脳がヨーテボリで「持続可能なEU総合戦略」を採択する予定です。首脳と資本主義支配に反対する市民の間では、なんらかの形で衝突が起こるでしょう。情報公開や市民参加を国の特色の一つとして掲げている主催国スウェーデンは、その衝突をどのように扱うことになるのでしょうか。EUに対して、すでに消極的になっているスウェーデン国民は、その様子を見てどんな反応をするのでしょうか。

ヨーテボリで開かれるEU首脳会議は、EUとスウェーデンの関係、EUの持続可能な社会構築の展望、民主主義の行方など、様々な意味で重要な会議になりそうです。
レーナ・リンダール

首相も肉食に疑問

クリスマスは各種の肉料理を楽しむ季節です。しかし、10月号で紹介した、動物からの食べ物を一切摂らない「ベガーン」主義の若者のように、肉食に疑問
つづく

スウェーデン環境ニュース

2000年 12月号 ページ3 / 3

2ページからつづく

を持つスウェーデン人が増えています。スウェーデン最大のダーゲンス・ニーヘテル(DN)紙12月23日付けのインタビュー記事によると、ヨーラン・パーション(Göran Persson)首相もその一人です。首相はベガン主義者についての本を読んだこと、自分の子供が学校給食で肉食を選ばなくなったこと、などが非常に印象に残っていると語っています。

ヨーロッパでは、病気の牛肉を食べる事により牛から人間へ恐ろしい病気が伝染するという「狂牛病」の騒ぎがまだおさまっていません。ニュースで開かれたEU主脳会議では、牛肉の料理は一切出されませんでした。スウェーデンでは狂牛病のケースは報告されていませんが、それでもスウェーデンのオスカシュハムン(Oskarshamn)市の学校は一時期給食から牛肉を外す対策を取りました。

ダーゲンス・ニーヘテルのインタビュー記事によると、首相は、食習慣の変化は一時的なものではなく、大きな社会変化の始まりだと確信していると話しています。そして、将来の家畜産業に大きな影響を与えるかもしれない、とも語っています。

(DN紙00.12.23、その他)

環境法典の英訳が完成

99年1月、新しい環境法典が施行されました。この法典の全文の英訳についてお問い合わせが何回もありました。環境省は今年より、環境法典(Environmental code)の英訳全164ページをホームページ上で提供始めました：

<http://www.miljo.regeringen.se/pressinfo/informationsmaterial.htm>

木質バイオマスペレット

第1回世界会議

木質バイオマスペレットの第1回世界会議、展示、視察ツアーが2002年、ストックホルム市で開

かれる予定です。ヨーロッパと北米のペレット関連組織が共同主催する会議です。その他の会議の詳細はまだ公開されていませんが、問い合わせ先はスウェーデン・バイオエネルギー協会です。資料の事前請求が可能です。

Swedish Bioenergy Association
(SVEBIO), <http://www.svebio.se>
Fax: +46-8-441 70 89
E-mail: info@svebio.se

2001年もエコツアーを開催します

2000年は「スウェーデン・エコツアー」を2回開催しました。好評により引き続き来年も開催する予定です。毎回テーマは異なり、まだ視察先も確定していませんが、日程は決まりました。参加は6人限定です。

5月13日(日) - 19日(土)、7日間

6月 3日(日) - 9日(土)、7日間

8月12日(日) - 18日(土)、7日間

プログラムの詳細が決まり次第ホームページに掲載します。ホームページ(以下参照)をご覧ください。方はご一報ください。

平野さんの長期間の指導に感謝

「スウェーデン環境ニュース」発刊から4年たちました。当時共同通信社記者だった平野真佐志さんに、1号目からずっと編集を手伝ってもらっていました。記事の書き方、日本語の表現、環境分野の専門用語など、たくさん教わりました。最近、平野さんから「協力はとりあえずここで中止させてください」という申し出がありました。また、ジャーナリストとして先輩の平野さんの指導に、自分が頼りすぎていることにも気が付きました。そこで、思いやりいっぱい、日本語を書く私の能力を育てくださった平野さんに多大な感謝の気持ちを送りつつ、ひとり立ちすることを決めました。

これからは、より自立したかたちでニュースをお届けしていきます。文書の質は異なっても、より自分らしいニュースライターにしていきたいと思っています。かといって、日本語として通じないと意味がありませんので、会員管理等協力の土屋なおみが基本的な日本語チェックを引き続き担当します。

レーナ・リンダル
皆さん、よいお年を！

発行/編集: Lena Lindahl (レーナ・リンダル) 会員管理/広報/編集協力: 土屋なおみ
年11回ファックス発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先: 電話/ファックス: 03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>